第１回高山市総合教育会議　　議事録

【日　時】　平成２８年２月１７日（水）　１３時１５分～１４時４５分
【場　所】　高山市役所４階　中会議室
【出席者】　（構成員）　高山市長　　國島　芳明
教育長　　中村　健史
教育長職務代理者　　針山　順一朗
教育委員　　打江　記代
教育委員　　岡田　悦子
教育委員　　野崎　加世子
教育委員　　長瀬　信

（構成員以外の出席者）
企画管理部長、教育委員会事務局長、市民活動部長、企画課長、教育総務課長、学校教育課長、文化財課長、学校給食センター所長、教育総務課リーダー、企画課リーダー、企画課職員

（傍聴者）　２名

【会議内容（次第）】
・市長あいさつ
・教育長あいさつ
・議題
（１）地方教育行政法の一部改正内容について
（２）高山市総合教育会議運営規程について
（３）教育に関する諸計画について
（４）高山市教育大綱の策定について
（５）意見交換
・その他

【議題要旨】
○地方教育行政法の一部改正内容について資料①を用いて説明（説明者：教育委員会事務局長）

○高山市総合教育会議運営規程について資料②を用いて説明（説明者：企画課長）
（質疑応答）
市長　　議長はどこの市でも市長なのか。
企画課長　　多くの自治体で市長が議長を務めている。

針山委員　　事務局はどこの市も企画課や総務課なのか。
教育委員会事務局長　市長部局が担当する市、事務委任や補助執行により教育委員会事務局が担当する市の両方がある。

○教育に関する諸計画について資料③、資料④を用いて説明。
（説明者：資料③企画課長、資料④教育委員会事務局長）

○意見交換

市　　長　　ご意見がありましたらお願いします。

野崎委員　　医療・介護・福祉分野の少子高齢化を解決していくためには、子ども達が地元に戻って来てくれることが必要。市長公約にもあるが、小中学校の頃から福祉分野等に携わる将来像をみせるためにもサテライトキャンパスの設置は必要と考える。

市　　長　　サテライトキャンパスの進捗状況は

企画課長　　大学を誘致するのは難しいのが現状である。若者の多くが市外へ流出しており、若者が高山で生活し、滞在していくためにも、若者の能力を活かしたまちづくりが大事だと考えている。協定している７つの大学を含め、大学などに対して高山市が若者への対策に力を入れていることをアピールする必要がある。そのためにも、市としてサテライトキャンパスを設置したいと考えている。
平成２８年度から複数の大学が共有して利用できるよう、実証的に進めていく予定である。

企画管理部長　サテライトキャンパスの設置と並行して、義務教育から高校をつなげ、段階的に看護師や保育士の不足などの現実を含め、地域の職業のことを子ども達に知ってもらうための取り組みも行いたい。

針山委員　　子ども達には学校教育だけでなく、福祉分野など複数の分野が関わってくるため、担当課だけでなく市役所内での横のつながりを大事にしていただきたい。
また、協働のまちづくりの中で子ども達をどう育てていくのか、そことのネットワークづくりもお願いしたい。

企画課長　　働く場、働く機会について子ども達が知ることが、高山市に愛着を持つことや人材育成には重要だと考えている。
その意味では、すべての部署が関わってくるため、他の部署も含めて進めていきたい。また、地域コミュニティの問題についても、地域がどうやって子ども達を支えていくのか、他の部署も関連付けながら進めていきたい。

打江委員　　子どもが社会に出るためには大人の声を聴くことが重要。大人が情熱をもって語りかけ現場の声を聴かせることで、子ども達も希望や夢を抱いて社会に出ていける。
そのためにも、キャリア教育を組織化し充実させることが大事。
先月、岐阜県の聾学校を見学したが、子ども達が希望を持って将来を見据えて勉強しているため学校が明るい雰囲気であった。
また、針山委員も述べたように地域で子ども達を育てることが大事。それにより、地域力も向上していくと思う。

長瀬委員　　高校生を取り込んでいく良い機会だと考えている。教育振興基本計画の中でも高校生への視点は抜けている。地域の活性化、地域の子ども達を成長させるためにも高校生を取り込んでいく仕組みが重要と考えている。高校生の学習成果を発表する場があるが、地域の課題解決に向け、地元の企業などと連携して新しい商品を開発するなどエネルギッシュに活動している。市長もご覧いただければ感激すると思う。

大学との連携も重要だが、市と高校生の連携、小中高との連携により、子ども達がより成長していくのではないかと考える。

市　　長　本町三丁目に実践的な店を出店したり、飛騨牛乳とのコラボで商品開発するなど、高校生がまちづくりに参画していると感じている。市でも平和宣言を考える際には、高校生にもアンケートをお願いした。どこに住んでいるのかは関係なく、飛騨地域に住んでいる子供からお年寄りまでの全体的な教育力をあげることが大事だと考えており、それには高校生との連携なしには考えられない。

岡田委員　保育園から中学校までの支援が、高校で途切れてしまうのはもったいないと感じている。
最近では学校へ来づらい子供達が増えているため、特別な配慮の必要な子に対して、もう一歩踏み込んだ支援をしていただき、どんな子も分け隔てなく教育を受けられる環境をつくっていきたいと考えている。

市　　長　スポーツは子どもからお年寄りまでつながっているイメージがあるが、その視点からどのように考えているか。

針山委員　スポーツ、生涯学習については予算がつきやすいが、教育分野については成果が見えにくいため予算がつきにくい。今の教育環境は充分ではないと考えているが、環境整備をするためには予算が必要。この会議で、教育現場の情報を市長に伝えていきたい。岡田委員から学校に来られない子の話もあったが、そのような子ども達には支援員が必要である。
全国の高校生で不登校になった子が約１２万人おり、その内約５万人が退学しているというデータがある。不登校にならないための対策は、小学校の頃から何かしらの手立てが必要となる。教育委員会でその対策を考え政策提言をしていくためにも、予算が必要と考えている。
また、将来的には、協働のまちづくりの中で、そのような子たちの居場所をつくれることが理想。

長瀬委員　スポーツの面についていえば、昨年、斐太高校野球部が活躍され、地域が元気になったし高山市が注目された。中山野球場が高校野球の予選会場となっていた頃は、地域の子ども達が高校生の活力あるプレーを直接見ることで、自分達の目標を定めることができた。
現在、中山野球場は条件を満たさないことで予選会場とされていないが、これは高山市にとって大きな損失だと考える。予算はかかるが高山市全体の子ども達の育成を考えれば、投資金額以上の効果があるのではないかと考えている。

野崎委員　学校現場では、車いすの子や障がいのある子など特別な配慮の必要な子がいるが、その子達への支援員が不足していると感じている。小学校の低学年の頃から療育と教育をすることで、子ども達の可能性を引き出せると思う。将来の高山市の大事な人材となる子ども達なので、必要な支援をお願いしたい。

打江委員　人口が減っていく中で高山市の労働力を考えると、特別な配慮が必要な子達に、小さい頃からその子にあった教育、支援をすることで一人前に働けるようになるため、指導員の先生をつけて段階ごとの教育をしてくことが大事だと思う。
文化財については、子ども達に価値があることを植え付ける必要がある。
昔を知ることは命を遡ることになり、自分の幸せや地域を守りたいとの思いが生まれる。各町内に資料はあるが、それをまとめたりする人材がいないため、学芸員など専門的な人が必要。地域ごとに誇りを持たないと地域が持続していかない。

岡田委員　合併した市町村にはお互いの良いところや地域の宝があるため、大人も子供もそれを見直して、それぞれの地域の良さを学んでいきたいと思う。深く知るためには時間はかかるが、小学校の頃から少しずつ地域のことを知っていければと思う。

市　　長　食育は学校教育にとどまらず、全ての年代に重要な分野だと考えるがどう思うか。

岡田委員　給食のおかげで、自分の子どもは好き嫌いがなくなったと思う。仕事で地元の野菜を扱っているが、給食で使って欲しい食材がいっぱいあるし、子ども達に知って欲しい食材もある。

針山委員　まちの博物館に魅力ある展示品が少ないように思う。また、まちの博物館は学習教育の施設であるため料金を徴収できないとのことだが、酒蔵だったところは切り離し、喫茶店にするなど有効活用することで、今進めている旧森邸の整備に併せ、まちの博物館を起点とした周遊ルートなどができるのではないか。

市　　長　ここで区切りにして、事務局からの考えを聞きたい。

市民活動部長　スポーツ振興については、教育委員会事務局から市長部局に移管したことで、スポーツを広い分野でとらえて取り組みが出来ていると感じる。教育振興基本計画の中では、スポーツに関し「する」、「みる」、「ささえる」、「つなぐ」の４つのキーワードを入れている。スポーツには、自分がスポーツをすること、スポーツを観戦すること、スポーツ大会をボランティアとしてささえていくこと、そのような場面で地域がつながっていくなどの側面がある。
また、スポーツの事業に市外から多くの方が来ていただけるため、地域の活性化にもつながっている。スポーツのみでなく、文化芸術などについても同じことが言えるため、教育委員会とも協力して取り組んで行きたいと考えている。

教育委員会事務局長　特別な配慮が必要な子への対応については、その子や保護者の方の希望に沿った支援をしていきたいと考えている。基本的な環境整備に併せ、それぞれの子ども達にどのような配慮が必要なのか、個別の指導員との話もいただいたが、そのような対応がしていけるようにしたいと思っている。
文化財について、地域にある資料の保存が必要との意見をいただいたが、重要な課題だと認識しているため、地域の宝として保存していけるよう検討したい。
食育については、郷土食や地域の食材の利用など、地域や大学などと連携してこれからもさらに力をいれていきたい。
旧森邸の整備については商工観光部と連携して検討している。今までまちの博物館では出来なかったことなどを、旧森邸の整備に併せて図っていきたいと考

えているため、活用のアイデアをいただきながら進めていきたい。

企画管理部長　キャリア教育については、大学との連携、小中高との連携が点ではなくつながるよう取り組み、職業を知っていただくことをしっかりやっていきたい。総合戦略の中でも、人づくりを位置付けているため、教育委員会と連携して取り組んでいきたい。
人口が減少していく中での労働力の確保については、１人当たりの生産力をあげていくためにも、特別な配慮が必要な子への支援など教育委員会と連携して取り組んでいきたい。
予算の確保については、教育の施策は短期での成果を見ることは難しいが、確保できるよう努めていきたい。

○高山市教育大綱の策定について資料⑤を用いて説明（説明者：教育委員会事務局長）
（質疑応答）

教 育 長　教育振興基本計画を大綱に位置付けることでも問題ないと考えているが、市長の思いの中に描かれている教育について、大綱の中に入れていかなければ、この会議をもって大綱を定めたことにならないと思う。まずは、会議で市長の思いも聞いていく中で、大綱を定めていくのが良いのではないか。
この後、市長はまちづくり協議会の円卓会議に出席されるが、まちづくり協議会の皆さんにも、教育・子ども達のことを視野に入れていただきたいと伝えて欲しい。
既に、子ども参画会議と一緒に取り組んでいる協議会もあるが、全ての協議会で取り組んで欲しい。
また、０歳から１８歳までとの考えがあるが、私はマイナス１歳から社会人スタートまでの支援が必要だと考えている。

市　　長　私は、大綱を早々喧々に決めるべきでないと考えている。大綱を決めるための会議ではなく、大綱はいろんな議論のとりまとめであって、まずは、この会議で教育の課題や問題点、夢や希望など、何回も議論を重ねて策定していくべきではないか。
教育長が述べられたとおり、教育振興基本計画をもって大綱にはしたくない。また、教育振興基本計画の中には予算を保証するような内容はないが、大綱には記載できるため盛り込んでいきたい。先ほどの、マイナス１歳との考え方も新たな視点であり、大綱は新たに策定したいと考えているがいかがか。

委　　員　異議なし

市　　長　それではそのように進めさせていただく。
あと、もうひとつ提案がある。大綱の内容は幅広く、様々な部署が関係するため、この場に各部の者を陪席させていただきたい。今、総合教育会議の委員の皆さんが何を考えているのかを、それぞれの部署に直接的に認識させたいと考えているがいかがか。

委　　員　異議なし

市　　長　事務局に聞くが、大綱はいつまでに策定しなければならないとの決まりがあるのか。

企画管理部長　特に期限はない。市長が述べられたとおり、議論が大切だと考えるため、特に期限を定めずに議論を続ける中で策定していけたらと考えている。

市　　長　教育委員の方の考えを直接聞いたのは、企画課などは初めてだと思う。子ども達が次の高山市を背負ってくれると考えるのなら、それは地域全体で育てていく必要がある。そして、その姿を見ながら我々大人も育っていくという意味からすると、全部局がこの場に参画するべきだと考えるので、もう少しこのような議論を交わしていきたいと考える。